

| | |
|---------|--|
| モデル事業名 | 赤谷地域活性化モデル事業 |
| 活動団体名 | 赤谷小学校区連携協議会 |
| ホームページ | |
| 所属/担当者名 | 新発田市 企画政策部 市民まちづくり支援課 清田稲盛樹 |
| 連絡先 | 0254-22-3101 内線 1364 tk-seida@city.shibata.lg.jp |
| 活動地域 | 新潟県新発田市赤谷地域 |

● 活動地域の概要

1. **地域の位置・人口**： 赤谷地域は、新発田市の最東端に位置し、上赤谷 1・2、滝谷、滝谷新田の4つの集落から成る中山間地域で、明治初期の鉱山開発で昭和 25 年には人口 4,200 人まで増加した。その後鉱山の閉山などにより、現在の人口は 575 人にまで減少した。

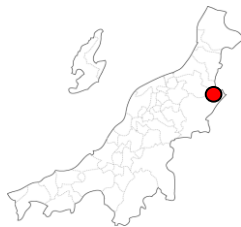
人口の推移

単位：戸・人・%

| | 世帯数 | | 総人口 | | 65歳以上人口 | | 高齢化率 | |
|------|-----|-----|-------|-----|---------|-----|------|------|
| | S63 | H20 | S63 | H20 | S63 | H20 | S63 | H20 |
| 地域全体 | 297 | 233 | 1,029 | 575 | 234 | 281 | 22.7 | 48.9 |

2. **気象・交通**： 赤谷地域は飯豊連峰の西麓、飯豊川の河岸段丘に位置し、夏は涼しく快適であるが、冬は積雪が 2 m を超えることもあり、家屋の雪降ろしも年 3、4 回必要なことから高齢世帯の大きな負担となっている。交通面では、昭和 59 年に国鉄赤谷線が廃止され、現在は新潟交通による路線バスが平日 8 往復、土日 4 往復運行されている。

3. **産業**： 江戸時代、会津領に属し、会津街道の要衝、宿場町として栄えた赤谷地域。明治時代になると鉱山開発は進み昭和 30 年初頭まで活況を呈したが、採掘量の減少に伴う閉山などにより、現在は自給目的の農業が中心であるが、近年、猿害による被害が増加し、農家の耕作意欲は減退している。



【位置図】



【高齢者化等による耕作放棄地増加】



【市内でも降雪量が多い赤谷地域】

● 活動地域の課題

過疎高齢化にともなう担い手不足から、集落コミュニティが希薄化し、水田、畑、山林などの保全や協同作業による道水路の維持管理など相互扶助機能が低下している。

また滝谷、滝谷新田では、バスの路線外となっており近隣バス停留所まで徒歩で 30 分の時間を要し、買い物や通院などに支障をきたしているほか、離農や猿害により耕作放棄地が増加していることに加え、災害時の安全確保、降雪期の雪下ろし対策など課題が山積している。

● 活動の内容

・平成 20 年度

赤谷地域の各集落において、困っている事、心配事や将来展望などについて意見集約を行い、課題解決のため 4 つの部会を設置し、それぞれに活動をはじめた。

- 生活向上部会：地域内の生活交通策について検討。アンケート調査を実施し、ニーズを把握。
- 相互扶助部会：災害時の安全確保策について検討。地域を横断する連絡網を作成。
- 地域資源掘り起こし部会：歴史資源の掘り起こしや利活用。赤谷の歴史をまとめたマップ作成。
- コミュニティ・ビジネス部会：地域の農産物や伝統食を活用した特産品づくりの検討。700 年前から続く「どんつきまつり」と伝統食である「やろもちづくり体験」を併せた体験ツアーを実施。

・平成 21 年度

昨年度、各部会でとりまとめを行った計画により課題解決のための活動を実施。

- 生活向上部会：高齢者の生活交通確保策の検討、実施。
- 相互扶助部会：災害時安全確保のための避難誘導策の策定やハザードマップの作成
- 地域資源掘り起こし部会：会津街道の復元。地域資源の掘り起こしによるイベント等の実施。赤谷歴史ガイドの養成と歴史探訪会の実施。
- コミュニティビジネス部会：耕作放棄地対策として「棚田オーナー制度」の構築。地域特産品の検討。地域が連携した効果的な猿対策の実施。

● 活動の成果

・平成20年度

○ 一集落では解決が困難な課題について、4集落が問題を共有し、話し合うことにより解決の糸口が見つかり、諦めの気運が蔓延していた地域に「自分たちでもやればできる」という気風が芽生えた。

○ 「生活交通対策」「災害時の安全確保」「PR イベント」の実施などについて多様な団体、人材から参画を得て協働で進めることにより、効果的なアイデアや方策がもたらされ、活動が好転したことに加え、多くの人が地域に来訪することで自分たちの暮す地域に誇りと愛着を深めることができた。

○ 地域内において多くの方が活動の大切さに気付き、地域を支える人材の発掘・養成ができた。



700年の歴史を持つどんつきまつりにあわせ、交流イベントを開催

・平成21年度

○ 生活向上部会：地域内でボランティア、利用者を募り最寄りのバス停留所、診療所までの送迎を行うボランティア輸送を週1回（金曜日）開始。

○ 相互扶助部会：平成23年までに設置が義務付けられている火災警報器の地区内とりまとめ、全世帯に設置と高齢者世帯には取り付けの実施。

○ 地域資源掘り起こし部会：現在、雑木に覆われ埋もれてしまった「会津街道」の復元に着手するとともに他市町村で同様の活動に取り組む団体と連携を協議。ボランティアガイドを養成し、イベントなどで歴史ガイドを実施。

○ コミュニティビジネス部会：耕作放棄地対策として「そばオーナー制度」構築のためのイベントを実施。猿害対策として、各団体、住民との連携による対策を検討。



ボランティア輸送による生活交通対策の実施

● 今後の課題及び展望

・課題

過疎高齢化の進行する地域において、将来に渡って活動が継続されるためには、そこに携わる人材と活動資金の確保が最重要課題である。当事業では、各種イベントやオーナー制度を進める中で、赤谷ファンの獲得、サポーターへ取り込みなど、活動を手助けいただける仕組みと、赤谷出身者に「ふるさと赤谷」の魅力発信と帰省を容易にする雰囲気づくり、二地域居住・土日帰省の受入体制を整備することが課題となる。

また特産品づくりやコミュニティビジネスなどを通じて活動資金を捻出できる仕組みづくりが今後の課題となる。

・展望

当協議会の活動にあたっては、できるだけ多くの地域住民が参加できるよう一人ひとりに役割を担っていただくとともに、個人に過重負担とならないよう留意し、一方では達成感が得られるよう光を当てることにより、住民間に共助の意識が醸成された。とりわけ最重要課題であった「生活交通確保策」については、17名ものボランティアが当番を決め運行にあっているが高齢化が進む地域において事業を継続できる体制について検討が必要となる。

また、各種イベントの実施を通じて多くの参加者が赤谷を訪れ、交流が育まれたことで、あらためて地域の魅力と豊富な資源に気付き愛着が深まった。交流イベントでの参加者アンケート調査では、「赤谷に移住したい」や「地域活動のお手伝いをしたい」などの回答もあり大きな自信となった。

赤谷においては、生活市場の開設やサポートクラブ創設、二地域居住の推進など、長期的な課題も多く残っているが、活動を通じて得られた「つながり」や「絆」を活かし、地域内外の方たちの助力を得ながら、地域活性化のための取り組みを継続していきたい。



3回の連続イベント「赤谷そばまるごと体験」では、募集30名に対して60名以上の応募があった。